

3級 学科試験

管理業務

【第38回知的財産管理技能検定】

(はじめに)

すべての問題文の条件設定において、特に断りのない限り、他に特殊な事情がないものとします。また、各問題の選択枝における条件設定は独立したものと考え、同一問題内における他の選択枝には影響しないものとします。

特に日時の指定のない限り、2020年9月1日現在で施行されている法律等に基づいて解答しなさい。

解答は、選択枝ア～ウの中から1つ選びなさい。

問1

ア～ウを比較して、商標登録等に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 「特定農林水産物等の名称の保護に関する法律」に基づいて保護を受けるためには、特許庁に出願しなければならない。
- イ 商標掲載公報発行の日から1カ月以内でなければ、登録異議の申立てをすることができない。
- ウ 音商標、位置商標、動き商標について商標登録を受けることができる。

問2

ア～ウを比較して、特許出願の明細書に記載しなければならない事項として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 発明の名称、図面の簡単な説明、発明の詳細な説明
- イ 図面の簡単な説明、図面、発明の要約
- ウ 発明の名称、発明の詳細な説明、特許請求の範囲

問3

ア～ウを比較して、弁理士の業務に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 弁理士は、自己が出願について代理した特許権に限り、単独で特許権のライセンス契約に関する交渉の代理人になることができる。
- イ 弁理士が所属する法人である特許業務法人は、その法人名義で特許出願の代理をすることができる。
- ウ 弁理士は、商標権についての売買契約の締結の代理をすることができない。

【第38回知的財産管理技能検定】

問4

ア～ウを比較して、商標権の存続期間の更新登録の申請に関する次の文章の空欄 に入る語句として、最も適切と考えられるものはどれか。

商標権の存続期間の更新登録の申請ができる期間は、商標権の存続期間の満了前 から満了の日までである。

- ア 1カ月
- イ 6カ月
- ウ 1年

問5

ア～ウを比較して、著作権人格権に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 著作者が有する著作権人格権は、公表権、氏名表示権、及び同一性保持権である。
- イ 著作者が著作権人格権を有するためには、文化庁への登録が必要である。
- ウ 著作権人格権の存続期間は、著作者の死後70年である。

問6

ア～ウを比較して、特許協力条約（PCT）に基づく国際出願の国際出願日として認められる日として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 国際調査機関が、記録原本を受理した日
- イ 国際事務局が、国際調査報告を受理した日
- ウ 受理官庁が、国際出願を受理した日

【第38回知的財産管理技能検定】

問7

ア～ウを比較して、商標登録を受けられる商標に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 先に出願された自己の登録商標と類似する商標について、商標登録を受けることができない。
- イ 他人の著名な芸名を含む商標は、その他人の承諾を得れば、商標登録を受けることができる。
- ウ 商品の機能を確保するために不可欠な立体的形状のみからなる商標について、商標登録を受けることができない。

問8

ア～ウを比較して、著作権法における頒布に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 上映と譲渡の性質を備える
- イ 上映と貸与の性質を備える
- ウ 譲渡と貸与の性質を備える

問9

ア～ウを比較して、特許出願における拒絶査定不服審判の請求と同時に行うことができる手続として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許出願の分割
- イ 手続補正書の提出
- ウ 拒絶審決に対する訴え

【第38回知的財産管理技能検定】

問10

ア～ウを比較して、パリ条約に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 優先権の主張の基礎となる第一国の特許出願を取り下げた場合には、優先権の主張を伴う特許出願をした他の同盟国において特許出願が無効となる。
- イ 同盟国の国民は、優先権の主張の基礎となる第一国の特許出願を、自国の特許庁ではなく、他の同盟国の特許庁へ出願することができる。
- ウ 同盟国間に不平等が生じないように、各同盟国の特許要件は同じである。

問11

ア～ウを比較して、著作権法上の引用に関する次の文章の空欄 ～ に入る語句の組合せとして、最も適切と考えられるものはどれか。

公表された他人の著作物を引用して利用する場合は、公正な に合致し、引用の目的上 範囲内で行われるものでなければならない。

- ア =取引 =適当な
- イ =慣行 =正当な
- ウ =慣行 =明瞭な

問12

ア～ウを比較して、意匠法に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 意匠権の存続期間は、意匠権の設定登録の日から10年である。
- イ 独立して取引の対象とはならない物品の部分について、意匠登録出願をすることができる。
- ウ 意匠登録出願について審査を受けるためには、意匠登録出願の日から3年以内に出願審査請求をしなければならない。

【第38回知的財産管理技能検定】

問 1 3

ア～ウを比較して、独占禁止法に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 事業者が競争者と共同して、ある事業者に対し供給を拒絶する行為は、不公正な取引方法に該当する。
- イ 事業者が、他の事業者と共同して対価を決定し、公共の利益に反して、一定の取引分野における競争を実質的に制限する行為は、不当な取引制限に該当する。
- ウ 事業者が、いかなる方法をもってするかを問わず、他の事業者の事業活動を排除し、又は支配することにより、公正な競争を阻害するおそれを生じさせることは、私的独占に該当する。

問 1 4

ア～ウを比較して、共同著作物に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 複数人が共同して著作物を創作した場合、その著作物は常に共同著作物であり、著作権は共有となる。
- イ 複数人が共同して創作した著作物であって、その各人の寄与を分離して個別的に利用することができないものは、共同著作物である。
- ウ 複数の著作物からなり、それぞれを別々に利用することができる著作物は、共同著作物である。

問 1 5

ア～ウを比較して、特許権に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許無効審判は、利害関係人でなければ請求することができない。
- イ 特許権者は、警告しなければ、権利行使をすることはできない。
- ウ 特許権者が特許発明を継続して3年以上使用していない場合は、特許不使用取消審判を請求することができる。

【第38回知的財産管理技能検定】

問16

ア～ウを比較して、特許出願の出願審査請求に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許出願の日から1年を経過すると、出願審査請求をしたものとみなされる。
- イ 第三者は、出願審査請求をすることができる。
- ウ 出願審査請求を取り下げることができるのは、特許出願人に限られる。

問17

ア～ウを比較して、意匠法上の実施権等に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 意匠権者は、登録意匠に類似する意匠について、専用実施権を設定することができる。
- イ 意匠権者は、重複する範囲について複数人に、通常実施権を許諾することができない。
- ウ 意匠権が共有に係る場合、他の共有者の同意がなければ譲渡することができない。

問18

ア～ウを比較して、著作物に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 著作物は、思想又は感情を創作的に表現したものでなければならない。
- イ 音楽の著作物は、著作権等管理事業者に届出をしなければ著作物として認められない。
- ウ コンピュータ・プログラムは、特許法で保護されるので著作物として認められない。

【第38回知的財産管理技能検定】

問19

ア～ウを比較して、不正競争防止法に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 不正競争防止法における不正競争の定義は、パリ条約における不正競争行為の定義と同じである。
- イ 不正競争防止法は、不正な競争が行われることを防止して、文化の発展に寄与することを目的とする。
- ウ 不正競争防止法には、差止請求できる権利が規定されるとともに、罰則についても規定されている。

問20

ア～ウを比較して、著作権等に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 著作権は譲渡することが可能であり、著作者人格権も一定の場合には譲渡できる。
- イ レコード製作者の権利は、当該レコードの公表日に発生する。
- ウ 映画の著作物の著作権の存続期間は、その映画の公表後70年を経過するまでである。

問21

ア～ウを比較して、発明の新規性喪失の例外の規定に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許を受ける権利を有する者の自己の行為に起因して新規性を喪失した発明について、新規性喪失の例外の規定の適用を受けることができない。
- イ 特許を受ける権利を有する者がした特許出願に係る公開特許公報に掲載された発明について、新規性喪失の例外の規定の適用を受けることができない。
- ウ 新規性喪失の例外の規定の適用を受けることができるのは、日本国内で新規性を喪失した発明に限られる。

【第38回知的財産管理技能検定】

問 2 2

ア～ウを比較して、商標登録に対する不使用取消審判に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 商標権者が登録商標の使用をしていない場合、専用使用権者が登録商標を指定商品に使用していても、取消しの対象となり得る。
- イ 商標権者が、審判の請求の登録前の3年以内に登録商標に類似する商標のみを指定商品に使用している場合、取消しの対象となり得る。
- ウ 登録商標を外国においてのみ継続して指定商品に使用している場合、取消しの対象となり得る。

問 2 3

ア～ウを比較して、著作物に関する次の文章の空欄 に入る語句として、最も適切と考えられるものはどれか。

個人的に又は その他これに準ずる限られた範囲内において使用することを目的とするときは、著作権者の許諾を得ずに著作物を複製することができる。

- ア 職場内
- イ 家庭内
- ウ 不特定少数のグループ内

問 2 4

ア～ウを比較して、特許権の発生に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許権は、設定の登録により発生する。
- イ 特許権は、特許査定の際の通知により発生する。
- ウ 特許権は、特許公報の発行により発生する。

【第38回知的財産管理技能検定】

問25

ア～ウを比較して、種苗法に基づく品種登録制度に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 日本国では、植物の新品種については特許法では保護されないため、種苗法による保護が規定されている。
- イ 品種登録出願がされると、出願日から1年経過後に出願公表される。
- ウ 育成者権の存続期間は、品種登録の日から起算される。

問26

ア～ウを比較して、編集著作物に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 編集著作物とは、編集物であってその素材の選択又は配列によって創作性を有するものである。
- イ 編集著作物の素材自体も、創作性を有する著作物でなければならない。
- ウ データベースの著作物は、編集著作物として保護される。

問27

ア～ウを比較して、特許協力条約（PCT）に基づく国際出願に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 出願人は、国際出願日から18カ月以内に国際公開の請求をしなければならない。
- イ 出願内容は、優先日から18カ月経過後に各国際調査機関により国際公開される。
- ウ 出願人は、国内移行手続をするためには、原則として優先日から30カ月を経過する時までに各指定官庁に対し、所定の翻訳文を提出しなければならない。

【第38回知的財産管理技能検定】

問28

ア～ウを比較して、商標権等に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 登録商標が著名であって、当該商標権に係る指定商品と非類似の商品について同一の商標を使用する場合には、当該商標権の効力が及ぶ。
- イ 他人の商標登録に係る商標登録出願の出願日前から自己の商標を使用しているも、先使用权が認められない場合がある。
- ウ 不使用取消審判により商標権が消滅した場合、当該商標権は同審判の請求の登録の日に消滅したものとみなされる。

問29

ア～ウを比較して、実演家人格権として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 氏名表示権
- イ 公表権
- ウ 同一性保持権

問30

ア～ウを比較して、意匠登録の要件に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 新規性喪失の例外規定の適用を受けるためには、意匠が公知となった日から30日以内に出願しなければならない。
- イ 意匠登録出願前に外国において公然知られた意匠に類似する意匠については、新規性を有しないことを理由として意匠登録を受けることができない。
- ウ 意匠登録出願後から意匠登録前までの間に日本国内において公然知られた形状等に基づいて当業者が容易に創作することができた意匠については、意匠登録を受けることができない。

【第38回知的財産管理技能検定】

【3級学科】

番号 正解

問1 ウ

問2 ア

問3 イ

問4 イ

問5 ア

問6 ウ

問7 ア

問8 ウ

問9 ウ

問10 イ

問11 イ

問12 イ

問13 ウ

問14 イ

問15 ア

問16 イ

問17 イ

問18 ア

問19 ウ

問20 ウ

問21 イ

問22 ア

問23 イ

問24 ア

問25 ウ

問26 ア

問27 ウ

問28 ア

問29 イ

問30 イ